

## 第2回ワーキンググループにおける委員意見について

(一社)日本自動車工業会 資料

1. **チャイルドシートの対応状況**
2. **アラウンドビューモニターの対応状況**
3. **自動運転の取り組み**

# 1. チャイルドシートの対応状況

- 現在では各社とも、参考身長150cmまで対応できる学童用シート(純正)を設定できている。
- 正しく使用してもらう環境作りが重要 (啓発、教育、価格、使用性)

		メーカー							
		A	B	C	D	E	F	G	H
AM95		大人用シートベルト							
AM50									
AF05									
cm	150	学童用シート							
	140								
	~138								
	130	学童用シート							
	~135								
	120								
	110	乳幼児兼用シート							
	100								
	95~								
	90	乳幼児兼用シート							
85									
~85									
80	乳幼児兼用シート								
75									
~75									
70	乳幼児兼用シート								
60									
新生児									



出典: 自工会各社ホームページ

## 2. アラウンドビューモニターの対応状況

### ■ 指摘事項

輸入車のアラウンドビューモニターの場合、ギアをリバースからドライブに入れた際に車速が5km/h程度になるまで映るものがあるが、国産車のアラウンドビューモニターは、ギアをリバースに入れたときのみ映る仕様になっている。発進時のアラウンドビューモニターが映れば、特に体格の小さい子供を発見しやすいなど、より安全だと思うので、検討してもらいたい。

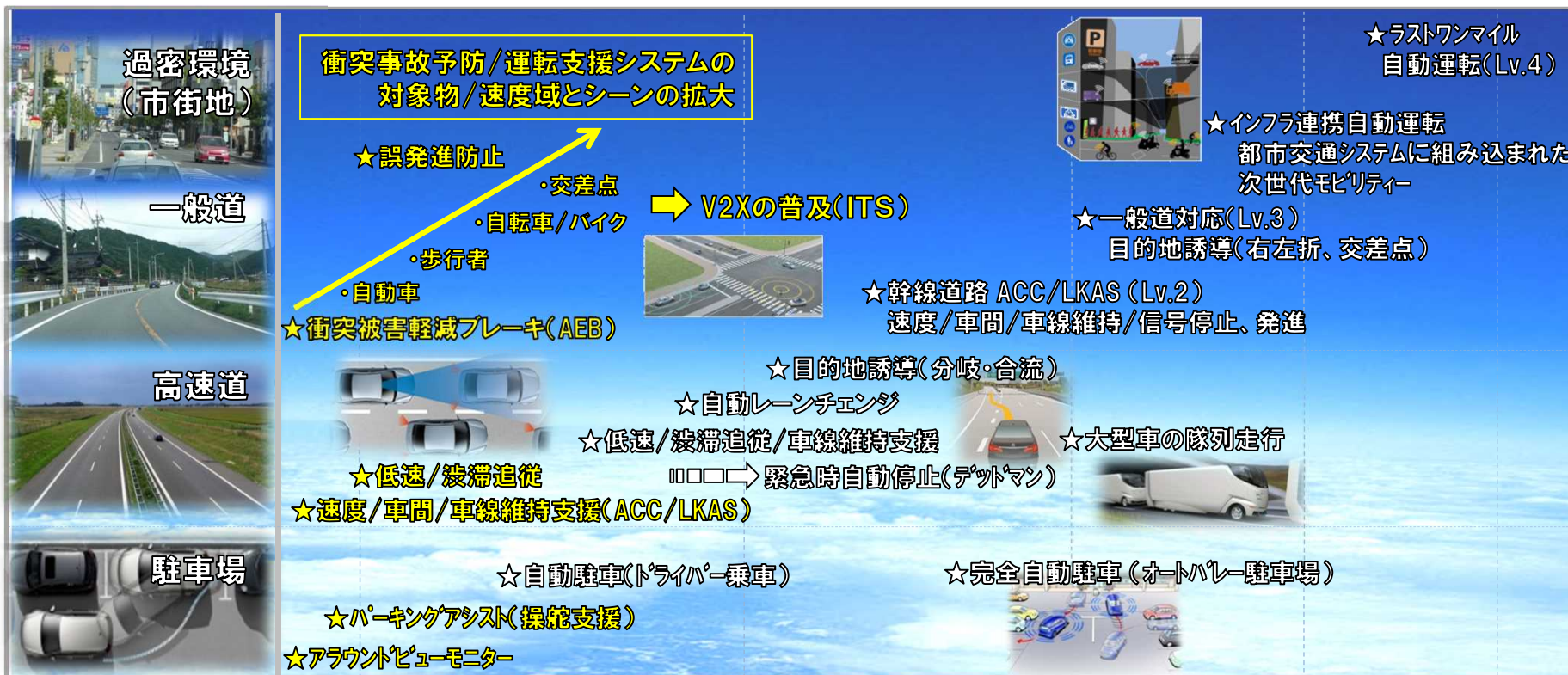
### ■ 指摘事項に対するコメント

特に自主規制などは無く、各社によって判断している。



提供：日産

# 運転支援 / 自動運転の展開



Time Frame (年)	運転支援システムの普及 Lv.1 → Lv.2		限定的な自動運転の導入と普及 Lv.3(自動車専用道) → Lv.3 → Lv.4		自動運転の成熟
	2015	2020	2030	2040	2050
<b>何ができる</b> ・事故低減	運転支援システムによるヒューマンエラー低減 ・衝突事故低減 ・車線逸脱事故低減 ⇒ 高齢運転者 についても事故低減		自動運転システム性能向上とシステムコスト低減による普及 ・事故ゼロに向け効果拡大		
・環境/渋滞問題 (運行効率向上) (運転負荷低減)	運転支援/ITSによる ・交通流の改善		高速道路 自動運転による ・運転負荷軽減、運行効率の向上 ⇒ 適用場所の拡大(一般道、市街地)		
<b>課題は何か</b> ・交通教育/制度	運転支援システムの普及促進		自動運転中の ・システムとドライバーの責任分担整理(ユーザーコンセンサス/道交法/車両法)		